

旧武徳殿 別れ惜しむ

取り壊し前に見学イベント

4月から取り壊しが始まる大津市京町3丁目の県体育文化館(旧武徳殿)で25日、内部を見学できるイベント「さよなら武徳殿」が開かれた。昭和初期の建築を見られる最後の機会であり、かつて練習拠点にしていた柔道家ら約560人が別れを惜しんだ。



旧武徳殿の畳で、打ち込みを行う子どもたち
(大津市京町3丁目・県体育文化館)

柔道家ら最後の打ち込み

同館は1937(昭和12)年、鉄筋コンクリート造の和風建築として建設。老朽化などの理由で2008年末に使用禁止になるまで、県の武道の拠点として県警や柔剣道の教室が使用していた。

イベントは任民有志でつくる市中心市街地活性化協議会が主催し、柔道家や近隣住民などが多く訪れた。道場の格天井や障子風になった窓ガラスなどを熱心に見学し、カメラを向けていた。

市内で柔道をする子どもたちも、最後の機会に畳の上で打ち込みも行った。堅田小5年の中前陽介さん(11)は「立派な建物で、ここで練習したいと思った。最後なのは残念」と話していた。(三木千絵)



昭和初期の建築に別れを告げる
来場者たち

京都新聞 (2018年3月26日)

武道の学びや 武徳殿に幕



大津柔道協会による「武徳殿」の最後の稽古

大津 600人が別れ惜しむ

長年子どもから大人まで多くの人が武道を学び、近く取り壊される大津市京町3丁目の旧県体育文化館「武徳殿」のお別れ会が25日あり、当時を懐かしむ地域住民ら約600人が集まった。

県によると、同館は19

この日は、市歴史博物館が所蔵する昔の稽古風景や大津の街並みなどの写真パネル30点が展示され、訪れた人は懐かしそうに眺めていた。近くに住む看護師芳谷優子さん(30)は、3歳から兄妹と柔道を習いに通っていたという。辛くて泣きながら稽古していたけど、思い出すと笑顔になる。家以上に懐かしい場所」。実家が近所だったという市内に住む会社員中村哲さん(50)は「よく遊びに来た思い出の場所。大津の街並み

37年に大日本武徳会の県支部の武道場として建てられ、鉄筋コンクリート造り2階建て延べ約1千平方メートル。50年ごろからは近くに庁舎があった県警などが武道の訓練をしていたほか、県産品などの展示場としても使われてきた。

しかし、2009年に県警本部が移転して使用者がいなくなり、老朽化が進んだこともあって使用禁止となっていた。解体工事は4月に始まり、敷地内にある旧県庁別館、旧第二別館も取り壊される。跡地は医療や福祉の関係機関が連携を図る拠点施設に活用されるという。

「一部だった」と話す。また、同館を練習拠点にしていた大津柔道協会の子どもや保護者ら約30人は最後の稽古をした。宮部博文会長(68)は「当時は県内全域からここに柔道を習いに訪れ、県大会や近畿大会が開催された。無くなるのはさみしいが、新しい施設になってからも地域のにきわいをつくる場所であってほしい」と話した。

(藤牧幸一)

朝日新聞 (2018年3月26日)

武徳殿に最後のお別れ

見学の市民ら「武道家の聖地 寂しい」



老朽化の県体育文化館 来月解体

来月から解体が始まる武道場「県体育文化館(旧武徳殿)」が25日行われ、集まった市民ら約600人は内部の道場を見学したり写真を撮ったりしながら

別れを惜しんでいた。

武徳殿は、戦前に武術振興をはかるため設立された「大日本武徳会」の道場として昭和12年に建設。入り母屋造りの屋根などが特徴で、柔道と剣道の練習や試合に使われてきた。

耐震基準の問題などから閉鎖。県は平成30年度に解体し、跡地に県医師会や県看護協会などが入る医療福祉拠点を整備する予定という。

この日の見学会は、解体前に武徳殿の雄姿を一目見ておこうと市民有志が企画。大津柔道協会の幼稚園から中学生までの選手ら20人も柔道着姿で参加し、広い道場を見渡しながら、歴史を感じ取っていた。

10歳から武徳殿で練習を積んだという同協会の宮部博文会長(68)「大津市本宮」は、「県の武道家の聖地でもあり寂しい。ここで培われた先人らの思いを胸に、今後も柔道を普及させた」と話していた。

旧武徳殿の柔道場を見学する大津柔道協会の子供たち

産経新聞 (2018年3月26日)